

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 6月 7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671500082
法人名	有限会社 さくら商事
事業所名	グループホーム 吉田さくらの里(西ホーム・東ホーム)
所在地	鹿児島市 東佐多町2060 (099) 295-2422
自己評価作成日	平成 22年 3月 4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaken-shakyo.jp/kohyo/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島県鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成22年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当ホームには両棟で囲んだ広い中庭があり、天気の良い日にはその庭を利用して外気浴や散歩などを支援しております。外に出で身体を動かすことによって屋内では得られない刺激があり、歌を唄ったりレクリエーションをしたりと気分転換にも最適だと考えております。庭の中に畑を作り、草むしりや水まきなど手入れをしながら野菜を作り、収穫から調理、食事までと共同生活を楽しんで頂けるよう支援しております。また外食やドライブなどもおこなっております。</p> <p>ホームの理念として「この家で、共にやすらぎ、共にくつろぎ、地域とふれあいのある暮らし」を目指し、地域の方々の協力を頂き、地域の中で安心してその人らしく暮らすことができるよう一緒に楽しみながら支援しております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>静かな田園地帯に平成15年に設立されたホームである。地域の方が気軽に立ち寄りサンルームで和やかにお茶を飲み語り合う利用者や職員の姿が印象的であった。</p>
<p>【優れている点、工夫点】</p> <p>1、運営推進会議の充実</p> <p>参加者は、校区公民館運営審議会、学校、民生委員、福祉アドバイザー、警察、消防、地域包括センター、自治会、家族会など多岐にわたり、グループホームについて理解を求め相互の協力体制を築いている。これは、地道に声かけを続けた努力の結果である。</p> <p>2、前回の外部評価の利用</p> <p>職員研修計画を作成し、段階に応じた学びの機会を確保したり、町の管理栄養士に依頼し研修を受けるなど、前回の外部評価で浮かび上がった課題に迅速に取り組んでいる。</p> <p>3、医療との連携</p> <p>協力医療機関との連携、看護職の配置が充実し、体調不良の早期発見や24時間態勢の医療連携が可能であることは心強い。充実したカンファレンスにも熱意を感じる。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開設当時より、この家で共にやらずらぎ、共にくつろぎ、地域とふれあいのある暮らしという独自の理念を続けて地域に貢献できる役割を探し安心して生活できるよう支援している。	開設当初に職員が話し合い決めた理念は、すでに地域密着を意識した内容である。理念はホールに分かりやすく掲げられ、職員会議や毎日の業務の中で具体的な言葉に置き換え、折に触れ確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（文化祭、敬老会運動会、奉仕作業など）に参加し交流を図っている。 また、近隣に買い物に出かけたり、野菜や米等を地域より購入している。	開設当初から地域に交流を呼びかけ続けた結果、今では地域行事に参加する機会が増えてきている。また、運動会の種目を工夫していただくなど、協力しながら見学のみでない積極的な参加が行われている。さらに、学生の体験学習などを受け入れ、開かれたホームとなっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	小中学校の生徒さんの体験学習等を積極的に受け入れ、認知症の理解や接し方について指導している。 また、人材育成の観点からも実習生の受け入れは積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意義を理解し、警察、自治会、民生委員、家族の方々等と2カ月毎開催しており情報交換及びサービスの向上に活かしている。	2ヶ月ごとに開催され、左記のメンバーのほかに校区公民館運営審議会委員長、小・中学校校長、消防署職員、福祉アドバイザー、医師、地域包括支援センター職員など、テーマにより多岐にわたる参加がある。毎回テーマに沿って活発な意見や質問があり、極めて有意義な会になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村とは常に連携を図り、サービスの向上に活かしている。	高齢者福祉課へ出向いたり、来所の際、近況をお知らせしたり、電話で問い合わせをしたり積極的に情報交換を行っている。また、毎年1回は介護相談員を迎え、利用者や職員の意見を表に現す機会を持つなどの取組みをしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設けて定期的に学習会を行っている。	鍵をかけない自由な暮らしを支援するために、職員は常に利用者の状態を把握するように努めている。毎年決める事業所目標にも「目配り」をあげ、ユニット間で連絡を取り合いながら、外出されるときにはさりげなくついて出るなど見守りを行っている。また、3ヶ月毎の身体拘束委員会では言葉による拘束や鍵をかけないことによるリスク、ヒヤリハットの事例検討など日頃のケアを振り返った話し合い、研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し合同会議で伝達し学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社会福祉協議会や包括支援センターなどの協力、アドバイスを頂きながら、職員にも講習し、利用者様へ支援をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や解約について利用者及び家族近親者等に十分な説明を行い、理解し納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者家族からの意見や要望、苦情等を内外問わず公開する機会を設けており、第三者委員会等に相談できるよう書面にて説明し意見箱等も設置している。 また、年2回家族会を開催し意見交換し話し合えるようにしている。	家族、民生委員、他のグループホーム管理者などからなる第三者委員を掲示し、家族にも説明している。運営推進会議でも参加した家族に意見や要望を出してもらえるように声をかけている。また、毎年家族アンケートを実施し要望などをまとめ、運営に反映している。職員が苦情などを把握した時には、苦情受付簿で他の職員と共有し、必要な場合は職員会議で話し合い、本人や家族、運営推進会議に報告するなど速やかな解決を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	合同会議で話し合いの場を作り反映されている。 また、日頃からコミュニケーションを図るように心掛け、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	各ユニットの合同会議を毎月開催し、運営者も参加して、利用者や運営に関する職員間の意見交換を行っている。管理者や主任は意見を出しやすい雰囲気作りに努め、充実した会議となっている。	職員の異動はできるだけ少なくなるように配慮しているが、昨年は数名の職員の異動があった。利用者や家族の不安を少なくするための配慮について検討の余地があるのではないかの提案を行い、ホーム便りによる報告など対策を話し合った。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	和気あいあいとした、働きやすい雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者のみならず、他職員も外部の研修会に順次参加し、後日合同会議で伝達講習を行い、知識の共有化を実施しサービス及び知識の向上に取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域交流会に参加したり、県グループホーム協議会に加盟し研修会等へ積極的に参加する中で情報交換や施設見学をお互い行っている。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人と話す機会を多く持ち身体の状態や心に向き合い、互いに理解し信頼関係を築く中で不安、要望を聴けるようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族と面談し、今困っている事やサービス状況（ケアマネより情報提供をしてもらう）について話を聞きながら信頼関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたら家族、本人に会いに行きケアマネージャーより情報を得ながら本人のニーズに応えられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者は人生の経験者である事を職員が共有し調理等を通して利用者様より指導して頂いている。 年間行事等についても風習を教えてもらっている（七草粥、鬼火焚き、etc..）		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活の状況を便り写真などを送り情報を共有している。 面会時は、居室で時間の許す限り一緒に何でも話せる関係を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や墓参りに家族と行ったり、正月、お盆等で親戚を訪ねている。	サービス開始前に本人や家族からそれまでの生活についての情報を得て入居後の暮らしに役立てている。また、入居後に家族や友人に面会に来てもらったり、知人宅を訪問したり、自宅や墓参りに行くことで昔の話が出て、生き生き話をされる利用者話から新たな馴染みの情報を得ることがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性の把握に努め、気の合う方と一緒に過ごせるようスタッフが常に気配りを行っている。お茶、食事の時間はスタッフが中に入り語り合う機会を作っている。(トラブル等が生じたら速やかに席を替える等の対応を取っている)		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方へは、訪問したり便りや家族と電話連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時、家族の面会等に情報収集し普段のコミュニケーションを通して思いや希望を聞いている。困難時には、カンファレンスにて対応を検討している。	入居前に本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き、アセスメントシートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後は、日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、介護記録や支援経過記録に記載し、ケア会議などの場で職員間の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用しながら生活歴、その人の暮らしの把握に努めている。 本人や家族の面会の時に情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的には、1日の流れはあるが、その日の体調を把握（バイタル測定）し、無理強いする事なく本人の意思も尊重して個別性のある支援をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に日頃の関わりの中で思いや希望を聞き入れスタッフ全員で意見交換し、月1回のミーティングで話し合い、本人本位のプラン立案に努めている。	3ヶ月毎に介護支援専門員が評価を行うとともに、毎月の合同会議で利用者の状況について話し合い、計画の見直しが必要な場合は担当者会議を開いて再度計画を作成している。また、軽微な修正があった場合にも赤字で書き加え家族にも同意をもらっている。担当者会議は家族が面会に来られた時を利用して行うことが多く、主治医の助言は前もって訪問診療の際に問い合わせることで計画に反映させている。	本人・家族の意向、主治医の助言を考慮して本人本位の計画を作成している。しかし、さらなる質の向上を目指すために、家族のアイデアを取り入れ、主治医などから機能維持や安全に対して意義やリスクの説明を受け、ひいては介護計画について話し合ったとの家族の認識を高めるためにも、担当者会議の開催方法の工夫が求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った記録ができるように番号をつけ、日々のケアに活かしている。 また、職員間では申し送りを利用し情報を共有し、プランの見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他のサービスを利用する機会が現在のところ無く、必要性が考えられる時には、ご家族とも相談をし、対応を検討したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に包括・警察・民生委員等参加。意見交換を活発に行っている。 地区の敬老会、運動会、小中学校の学習発表会にも積極的に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人もしくは家族の希望するかかりつけ医としている。 定期的に往診に来て頂いておりその都度状態を報告している。 医師とは24時間連絡がとれる体制をとっている。	主治医選択においては、利用者及び家族の希望を大切に、主治医と協力医療機関の診療が円滑に進むための支援をしている。訪問看護師と協力して利用者の状況をより詳しく伝えたり、通院介助や訪問診療の際に、利用者の日頃の状況を主治医に伝えている。また、家族会後に協力医の講演を企画し、家族が医師に相談しやすいように配慮している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に情報収集を行いながら早期発見、健康管理を行っている。 月1回看護部会を開き両棟主任、管理者を含め情報を共有している。 記録も医療面は※を付け、すぐに情報がとれるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、支援方法（介護サマリー）を医療機関に提供、必ず見舞うようにしている。 家族との電話でのやり取りをしながら早期退院に向け支援している。また、主治医との面談も積極的に行っている。受け入れ対策についてはカンファレンスを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>職員もターミナルケアの研修を受け、Dr. を交えて職員会議、看護部会を中心に受け入れ体制等についても学習会を行った。</p> <p>家族には、必ずDr. より病状を説明してもらいご本人の意向に添ったケアを実施できるよう話し合った。</p>	<p>希望があれば支援を行う方針である。入居の際に家族などに「重症化した時の対応に関する指針」に沿って説明し同意をもらっている。入居後は本人や家族の気持ちを大切にしながらできるだけ意向に沿うよう対応方針を主治医と話し合い、職員にも伝達し共有を図っている。ターミナルケアの研修を行い、医師や家族とともに話し合い、ケアプランを作成し職員も方針を共有しながら看取り介護に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>地域の消防署の協力得てスタッフ全員が応急手当の学習会を行っている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域住民の参加、協力を得ながら訓練を行っている。</p> <p>マニュアルも作成している。</p>	<p>緊急時のマニュアルを作成し、消防署や付近の住民と協力して、夜間を想定した場合も含めた避難訓練や消火訓練、救急蘇生法の練習に取り組んでいる。食料や飲料水、非常時の食料や飲料水、備品の整備も行っている。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>接遇の研修会には職員全員が参加しており、利用者、個々に応じた声かけをするように努めている。</p>	<p>入居時に個人情報の保護方針についての説明をし、記録等は来訪者の目に触れないように事務室に保管している。利用者への日頃の声かけについては、勉強会で確認し、個人を尊重するような声かけや行動を実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	筆談やジェスチャーを活用し、各利用者に合わせた声かけを行っています。 普段より本人の想いを知るように心がけ、利用者様の意思の尊重に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはありますが、その日の利用者様の体調に配慮しながら、決して無理強いすることなく個別性のある支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	車イスの高さに鏡を置き、自分で身だしなみが行えるように配慮している。しかし介助が必要な方には職員が支援する場面が必然的に多くなるので、なるべく利用者本位になるよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理作りから配膳、後片付けまでを利用者と共に行っており、職員の一方向的な支援にならないよう配慮している。 買い物にも同行してもらい、食に対する意欲向上に努めている。	朝、入居者と職員と一緒に献立についての話をし、希望によっては献立の変更をするなど食を通じた会話で意欲を引き出している。買い物、準備、下膳を共に行い、職員も一緒に会話を楽しみながら食事をしている。昨年の外部評価で取り組み事項となった、管理栄養士との連携についても、保健所栄養士に研修を受け、ケアに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の症状に応じて管理栄養士の方からいつでも助言をもらえる体制をとっている。 水分摂取についてはチェック表があり、摂取量の少ない方には補水に勧めるなどの対策を講じている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず歯磨き誘導を行い介助が必要な方には職員が付き添うなど、口腔ケアの重要性は浸透している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを活用しながら個々のパターンや兆候にあわせて前誘導を行っている。 また、本人に不必要なおムツ、パット類は減らしており、職員の自立支援に向けた意識も高い。	排泄チェックシートの記入で一人ひとりの排泄のパターンを把握し、さりげなく声をかけ、羞恥心に配慮した支援を行っている。また、おむつ業者の説明を受けながら不必要なおむつやパットの使用を控えるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘者の情報を職員が共有しており、その場面に応じて腹部マッサージや散歩誘導など自然排便に向けた働きかけを行っている。 また、主治医とも連携をとり、その都度適切な指示を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週3回行っているが、利用者の状態に応じて行っており、希望があれば入浴日以外にもその都度対応している。	入浴日はある程度設定しているが、現状は毎日入浴している方が多く、気に入った方同士の入浴もある。また、入浴を嫌われる方には入浴時間帯や声かけの仕方を工夫し入浴を促して心身の安定や保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外気浴やレクレーションへの参加を促し安眠できる生活リズム作りをしている。 また、利用者の状態をみて昼寝を勧めるなど、個々のリズムに合った支援に取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については、カルテに綴じ、全スタッフがいつでも分かるようにしてある。 薬の変更があったらカルテ（体温表）に記録して本人の状態変化に気付くようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意分野に着目し、料理や手芸、掃除など利用者が能力を発揮し、いきいきと生活が行える場面作りをしている。 また、スタッフ側からはその都度感謝の気持ちをお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>買い物やドライブは週間行事として実施している。</p> <p>また、暖かい時期にはお弁当を持って近くの公園や池までピクニックに出かけたりと外出行事には積極的である。</p>	<p>近所の商店への買い物、ドライブ、墓参りなど一人ひとりの希望に沿った外出の支援をしている。中庭や畑があり野菜や花を見ながら散策や外気浴ができ、気分転換をしたり五感の刺激を受けている。また、車いすの方も車に乗って一緒に出かけ、外出の機会を確保している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理している方は買い物の領収書を事業所で保管しており、家族面会時に一緒に財布のお金の点検を行っている。</p> <p>事業所で管理している方は、買い物の時等にお金を渡している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>年賀状、暑中見舞い等は出している。</p> <p>ご本人の希望があれば、いつでも電話がかけられるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テーブルには、季節の花を飾ったりし、居心地の良い環境作りに努めている。</p>	<p>ホームのサンルームは格好の談話室である。玄関や食堂などの共有空間には季節の花が飾られ、出入りしやすい台所では利用者が安心して活動する様子がうかがえた。廊下の椅子やテーブル、ソファなど好きな場所で思い思いにくつろぐことができるスペースもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有スペースとそこよりやや離れた一角にテーブルとイスを設置し、利用者様がどちらでくつろぎたい場所を本人にお任せしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使い慣れた家具、カセット、カーペット等持ち込み、利用者様の使いやすいように共に部屋の模様替えを行っている。</p>	<p>居室は畳敷きとフローリングの部屋がある。家族とも相談し一人ひとりの希望や状況に応じて、家具、ラジオ、人形など馴染みのものが持ち込まれ居心地のよい空間となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関のスロープ化、生活圏での手すりの設置はもちろんのこと、ホーム全体のバリアフリーを実施し、安全に配慮している。 また、利用者様の特性に合わせて、迷い、混乱が生じないように目印・表示等を目立つようにしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開設当時より、この家で共にやすらぎ、共にくつろぎ、地域とふれあいのある暮らしという独自の理念を続けて地域に貢献できる役割を探し安心して生活できるよう支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（文化祭、敬老会運動会、奉仕作業など）に参加し交流を図っている。 また、近隣に買い物に出かけたり、野菜や米等を地域より購入している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	小中学校の生徒さんの体験学習等を積極的に受け入れ、認知症の理解や接し方について指導している。 また、人材育成の観点からも実習生の受け入れは積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意義を理解し、警察、自治会、民生委員、家族の方々等と2カ月毎開催しており情報交換及びサービスの向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市町村とは常に連携を図り、サービスの向上に活かしている。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会を設けて定期的に学習会を行っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の研修に参加し合同会議で伝達し学ぶ機会を設けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>社会福祉協議会や包括支援センターなどの協力、アドバイスを頂きながら、職員にも講習し、利用者様へ支援をおこなっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や解約について利用者及び家族近親者等に十分な説明を行い、理解し納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者家族からの意見や要望、苦情等を内外問わず公開する機会を設けており、第三者委員会等に相談できるよう書面にて説明し意見箱等も設置している。 また、年2回家族会を開催し意見交換し話し合えるようにして		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	合同会議で話し合いの場を作り反映されている。 また、日頃からコミュニケーションを図るように心掛け、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	和気あいあいとした、働きやすい雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者のみならず、他職員も外部の研修会に順次参加し、後日合同会議で伝達講習を行い、知識の共有化を実施しサービス及び知識の向上に取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域交流会に参加したり、県グループホーム協議会に加盟し研修会等へ積極的に参加する中で情報交換や施設見学をお互い行っている。</p>		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者様の気持ちを理解できるよう、落ち着いた雰囲気傾聴できるように心がけている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の方に耳を傾け、これまでの生活状況、これから何が必要なのか、話し合いの場を持つようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族の意見をしっかりと受け入れケアマネージャーなどと連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、衣類整理など一緒に行うことで声かけを行い、利用者様にご指導頂くようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時は、生活状況を話し、過去の出来事を聞くなどして支え合っているよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事があれば来ていただき、こちらから友人、墓参りなどに訪ねていきます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握して、状況に応じて利用者様の間に入り良い雰囲気を保てるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞い、電話などで状況を聞いたり、ご家族の方が足を運んで下さったりして関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で表情、言葉などを読み取り、一人ひとりに見合ったケアを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族からこれまでの暮らしを聞きとり、馴染みの物は持ってきて頂くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状況に応じて、利用者様に見合った生活が送れるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族より意見があれば主治医などからもアドバイス頂き、カンファレンス、ミーティングにて話し合う場を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りなどで情報を共有し、記録なども利用者様の話した言葉、気付いた事などを記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診など職員も同行したり、時には、ご家族の方も一緒に行くなど、状況に応じて柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容サービスなど活用したり、推進会議などで包括支援センター、民生委員、警察など協力を得ながら支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が往診に来て頂き、その都度状況報告を行い、場合によっては、ご家族も同伴してもらっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、24時間体制で気付いた点は相談できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は電話、見舞い、または往診時に状況を聞くなど行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者様、ご家族の気持ちを汲み取り、医師を含め状況の変化に応じて話し合う機会を設けている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署の方の協力を得て、応急手当などの勉強会を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の方々も一緒になり消防署の方の指導により火災訓練を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対して声かけ、対応など傷つけないように行い、意思統一を図るように努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の表情、行動、会話を観察することで一人ひとりに見合ったケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況に合わせて利用者様の意見を取り入れながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	訪問美容を活用して、髪染めを希望される方はして頂き、また状況に合わせて化粧の仕方など工夫している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に考えたり、買い物なども同行して選んで頂く。準備なども会話を交えながら、その場の雰囲気を楽しく感じて頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分などチェック表を活用して食事形態など工夫して行っている。 また研修会に行くことで、それを持ち帰り、職員間で共有し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけを行い、出来る部分はして頂き、出来ない部分はサポートすることでケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェック表を用いて把握することで、さりげなく声かけ、誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を用いて状況を把握して運動、マッサージ、ヨーグルトなどにて対応を行っている。 また、かかりつけ医と状況に応じて相談、指示を頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決まっていますが、本人様が入浴したい時に入って頂くよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	1日のリズムを取っていただく ように利用者様の状況に合わせ て日中の活動に参加して頂いて いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	状況に変化がある場合は医師 相談を行い、しっかり記録を行 うことで職員間にて連携を図っ ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活暦や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	生活の中で一人ひとりに見合 った役割を持って頂き、その 場面ごとに何か楽しみを感じて 頂くよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう に支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援している。	利用者様の希望に応じて、ド ライブ、買い物、花見など行っ ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している	買い物時はレジの方にも協力 頂きゆっくりあせらず利用者 様にお金を出して頂くことで、 その雰囲気味わってもらえる よう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご希望により、ゆっくりと電話して頂ける空間作りや、呼びかけをすることで、ご家族などとコミュニケーションを図れるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に月ごとにカレンダー、塗り絵、ちぎり絵など、自室またはリビングなど壁に貼り、工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、ソファ、庭、ベンチなど、ゆっくり過ごして頂けるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様、ご家族と相談しながら馴染みのある物を持ってきて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の持っている力をしっかり見極め、状況に応じて話し合いを持つようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	職員は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない